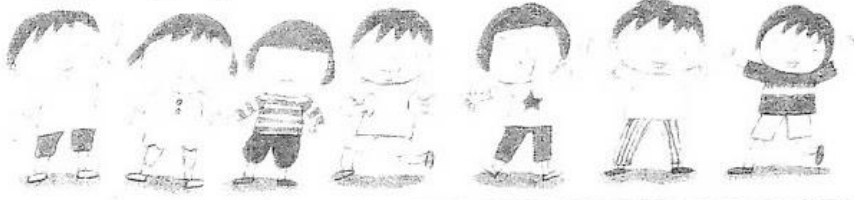


ゆりかご園だより

2020・8・1

2期目(6~9月)のねらい
からだづくり活動を通して子ども関係の質
を高めよう



例年、ゆりかごの年長見せ組は、7月に「合宿」という長期的な取り組みをしています。年長児ならではのこの行事を、新型コロナウイルスの感染拡大を避けるため中止にする園も多いようですが、できるだけ仲間と楽しい経験を味わってほしいと、

例年通りとはいきませんが、「お泊り会」に名称を変えて実施しました。

子どもの成長に「生活」と「あそび」が欠かせないのはもちろんですが、行事などの長期的な活動も重要になります。午前中から翌日のお迎えに来るまでの時間をどう過ごすか、子ども個人の要求をクラス集団としての要求まで高め、実現に向けて保育士のリードで話し合いを重ねてきました。今年にはコロナの関係で、子どもたちの要求を実現できないこともありました。ギリギリまで子どもたちの安全面を考えたながら、内容を検討してきました。

子どもたちの中にはお父さんやお母さんと離れて泊まった経験がない子もいて、不安を口にすることもありましたが、そんな時は「友だちが一緒だから大丈夫だよ」「先生もいるから心配ないよ」と仲間が励ましていました。実際「お泊り会」の夕方には「お母さんお父さんに会いたくな」と泣き出しそうなお子もいましたが、結局、誰一人泣くこともなく寝入り朝までぐすりでした。心細くなったり、お父さんお母さんが恋しくなる気もちよりも、仲間と過ごす楽しさが上回ったようです。

ぞう組の留守中、「来年は自分たちだ」と期待しながら買物や飾りつけをした年中児のりす組。「お母さんがいなくても泊れるかな」と今から心配する子もいるようですが、きっと大丈夫。ぞう組の子どもたちも一年前は「とてもじゃないけどムリムリ!」と言っていたから。

「求め合う関係」をめざす歳児の保育。「認め合う関係」をめざす4歳児の保育。そして5歳児の「支え合う関係」をめざす保育では、それぞれの個性や持ち味を把握し、得意なことを発揮できるような、苦手なことは得意な子に教えてもらおうような、そういう関係のクラス集団をつくっていかれたらと思います。